

## 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策

## I 学力調査の結果【小学校・義務教育学校前期課程】

## 1 教科に関する調査結果（平均正答率）

	国語	算数
全国	67.2	62.5
広島県	69	64
府中市	71	63
自校	71	64

## 2 調査結果にみられる特徴（相当数の児童ができている点）

## 【国語】

- ・「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる」問題〔1三(2)イ〕（正答率：100% 全国平均：93.1%と比較して+6.9p）
- ・「送り仮名に注意して、中心となる語や文を見付けて要約する」問題〔2一〕（正答率：100% 全国平均：90.0%と比較して+10.0p）

## 【算数】

- ・「正方形の意味や性質について理解している」問題〔2(2)〕（正答率：100% 全国平均：87.2%と比較して+12.8p）
- ・「伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係が比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いる」問題〔1(2)〕（正答率：95.7% 全国平均：88.5%と比較して+7.2p）

## 3 調査結果にみられる課題及びその課題に対する改善策

## 【国語】

課題	課題に対する改善策
「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける」問題〔2二〕 （正答率：60.9% 全国平均：67.4%と比較して-6.5p）	目的に応じて必要な情報を見つけだし、図表やグラフ、絵などと文章を対応させて読む力を身に付ける必要がある。そのために、図表やグラフから分かることを読み取り、複数の資料の中から目的に合った資料を使って自分の考えを述べたり、課題に沿った資料と文章を結びつけたりする活動や、あらすじをまとめて自分のおすすめの本を紹介する活動等を学年に応じて取り組んでいく。また、繰り返し出てくる語句や似たような語句に着目するなど、文章の内容を捉えるための視点を身に付けさせていく。そうすることで、長い文章の中からも、必要な情報を読み取ることができる力を身に付けさせていく。

<p>「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」問題〔1ー〕        (正答率：60.9% 全国平均：64.7%と比較して-3.8p)</p>	<p>原因と結果など、情報と情報との関係について捉える力の育成として、普段の生活の中にある事象がどのような原因によって起きたのかを把握したり、明らかにしたりする。問題が起きた際に、何が原因で起きた事なのか、それを解決していくための解決方法は何かを考え、伝えたい内容を明確にして表現する言語活動や体験活動を設定する。また、文章問題を読み解くときには、各段落の内容を理解するだけでなく、その役割や段落の繋がりなどに着目しながら読む活動を設定する。</p>
---	---

【算数】

課題	課題に対する改善策
<p>「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」問題〔2(4)〕(正答率：13.0% 全国平均：20.8%と比較して-7.8p)</p>	<p>図形を構成する要素などに着目し、基本的な図形の面積の求め方から面積の大きさを判断して、その判断の理由を表現する必要がある。そのため、形は違うが同じ面積になる平行線の間を図形を等積変形して同じ形になることを視覚的に示すなどして、基本的な図形の概念や直線の位置関係について理解させ、図形の性質や図形の計量について考えさせる。また、理由を表現する説明の仕方を身に付けさせる必要がある。授業において指導者は、思考力・判断力・表現力を重視した課題設定や児童の思考が残るノート作りを心掛け説明させる場を設定する。また、公式を用いた計算力を高めるために、朝学習やぐんぐんタイムを活用して練習問題に取り組む。</p>
<p>「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」問題〔1(3)〕(正答率：47.8% 全国平均：55.5%と比較して-7.7p)</p>	<p>伴って変わる二つの数量について、変化の規則性を基に筋道を立てて考えて説明したり、二つの数量の関係を立式したりすることはできている。しかし、正確に計算することができていないため、正しい答えを求めることができていない。基本的な計算力を身に付けさせるために、帯タイムや家庭学習などで基本的な計算問題に繰り返し取り組ませる。</p>

4 学習状況調査（児童質問紙）の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目	
<ul style="list-style-type: none"> <li>今住んでいる地域の行事に参加していますか</li> </ul>	(自校 79.2%、全国 57.8%)
<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか</li> </ul>	(自校 87.5%、全国 81.8%)
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の中で PC やタブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか</li> </ul>	(自校 100%、全国 95.1%)

## 5 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目	改善のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか (肯定的：自校 75.0%、全国 91.0%)</li> </ul>	<p>児童が幸せな気持ちになるには、児童の自己肯定感を高める必要があると考える。そのためには、児童一人一人が活躍できる場を多く設け「できた」という達成感を味わわせるとともに、教師が肯定的な評価をするだけでなく、児童同士で認め合ったり、家庭や地域からも肯定的な声かけをしてもらったりするなど、学校、家庭、地域が連携して児童を育て、児童の成長に気付き、しっかりと褒めていく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか (自校 45.9%、全国 77.4%)</li> </ul>	<p>次の学習へとつなげるために、振り返りの質を向上する必要がある。そのために、振り返りの目的を理解させ、振り返る視点を示し、振り返りの内容を焦点化して取り組ませる。また、他者と振り返りを共有させることで、他者の振り返りの内容を自分の学びに生かすことや、自己を振り返り、自己の成長を自覚させる。このように、振り返りの質を向上させることで、学習の価値を自覚させることで、新たな問いを生み出すなど、次の学習へとつなげる。</p>